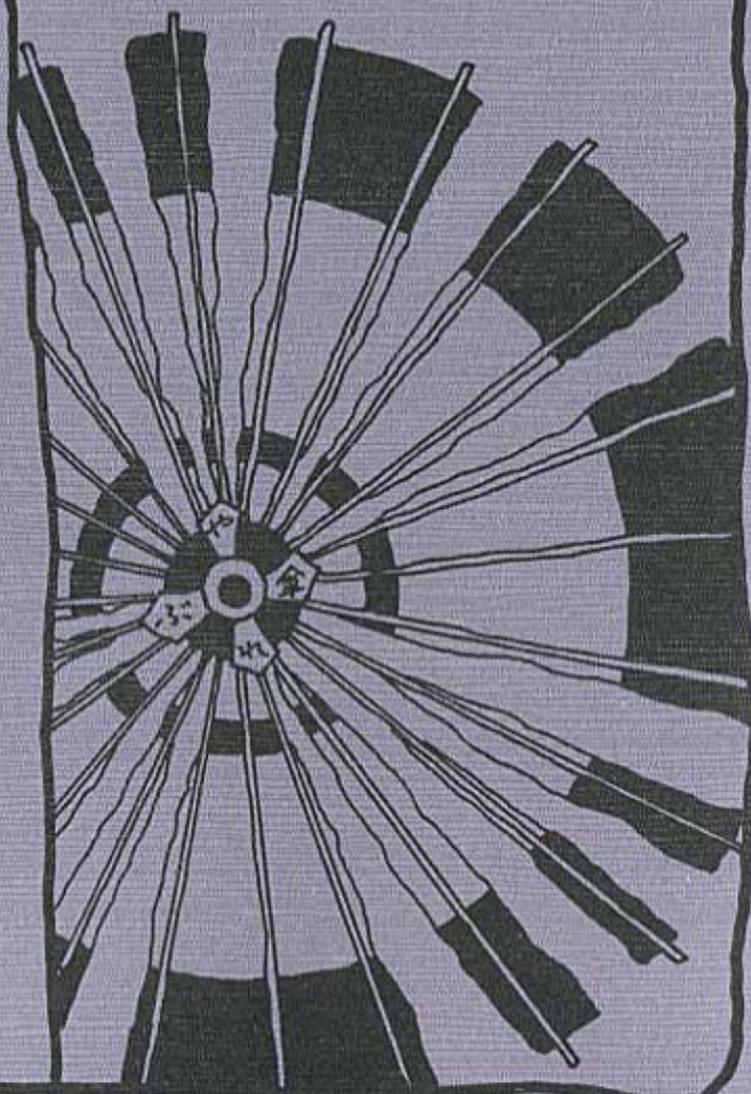


# やぶれ傘

九十号

二〇一六年六月



散髪にゆくことにする麦の秋 根橋宏次

夏近き鴉が紙のやうに降り 大島英昭

山藤や自動車クルマの先を猫車 丑久保 勲

活断層見える切り岸夏つばめ きくちきみえ

合宿の明かり艇庫に夏来たる 廣瀬雅男

石切場跡はむき出し春の蔭 瀬島酒望

駄菓子屋のルビーの指輪啄木忌 菊池洋子

帰るときいつも路上に夏椿 藤井美晴

夏シャツの袖から覗く肘の色 小山陽子

水口に風波向かふ代田かな 渡邊孝彦

店主出て伸ばす日除けや青物屋 青谷小枝

雨雲のたれて川辺に蘇鳴けり 白石正朝

連弾のドレスふれあふ春灯 安藤久美子

吾寄れば目高の群れのさつと散る 久世孝雄

打ち臥せて幼の眠る花の雨 秋山信行

抄 集 句 傘 れ ぶ や

選 夫 紀 崎 大

車降りればすぐに蕙薺の香ばらまつり 有賀昌子

葉桜となりてやうやく空晴るる 松村光典

初夏の手水舎の水飛び散つて 本田 武

春の浜野球部員のランニング 森美佐子

土筆摘む借り自転車を脇に止め 湯本正友

乳さぐる仔馬の足のおほつかな 石塚清文

坂道をころがるボール春休み 岡田香緒里

満席の蕎麦きり処麗けし 神山市実

バス降りて家まで急ぐ臙かな 國保八江

朝早起雀の声や夏近し 小池一司

駅までは父と早足手毬花 佐々木あつ子

夏の風路面電車の中をぬけ 鈴木昌子

傾きて星座臙になりにけり 武石京子

捨て畑の大桑となり芽吹きたり 時田義勝

門前に飴切の音若葉風 野口希代志

山 羊

大崎 紀夫

春の昼パン食ひにいく土手の上  
苗木市はづれに石を売る小店  
ぼうたんのひとつの大き赤ひらく  
山藤は見上げるほどの木に垂れて  
泣き砂のほどよく乾き夏来たる

仲見世に午後の日ラムネ玉ぽんと  
俎に魚の頭朝ぐもり  
バス停は田んぼの向う夏つばめ  
片陰の一二歩とぎれぬるところ  
麦あきの丘のふもとに登り窯  
針金の柄がぐにやぐにやの蠅叩  
山羊群れて炎昼をくる鈴の音

麦の秋

根橋宏次

土けむりあがる畑をゆく雉子  
遠ざかるオールのひかる桜かな  
とほくまで右岸左岸となく花菜  
端つこの席に与る花筵  
じゅんばんんに屈む地獄の釜の蓋  
雪形の模糊となりける花あけび  
マロニエの咲いて名画の二本立て  
田を植ゑてさざなみのゆくばかりかな  
えご散つてゐるところより坂道に  
散髪にゆくことにする麦の秋

虻

大島英昭

遅桜しだるる庭に芝刈機  
うつすらと日が見えてくる蓮華草  
鳥つるむ原つば草がにほひたて  
木漏れ日に虻がきてをり海見えて  
球場につばめ来てゐる雨もよひ  
夏近き鴉が紙のやうに降り  
からす麦雲あらはれて昼となり  
棕櫚の咲く生物製剤研究所  
塗り立ての稲荷の鳥居えだ蛙  
姫女苑マンホールより水の音

山 藤

丑久保勲

しやがみゐる庭師の背中花馬酔木  
菜の花の匂ふ古墳をまはりけり  
ざる蕎麦の箆干してある八重桜  
墓石なき更地の墓地にポピー咲く  
雪しろの流れ屋号は右書きに  
山藤や一自<sup>く</sup>動<sup>る</sup>車<sup>ま</sup>の先を猫車  
楠若葉近寄つて見る墓の文字  
袋田の夏うぐひすを聴く蕎麦屋  
古墳より町の植田を見下ろして  
信号と重なつてゐる西日かな

夏つばめ

きくちきみえ

ペンペン草をシャカシャカにして捨てる  
春の月逸れて線路の曲がりゆく  
鳥かごの鳥に差し出す花はこべ  
亀鳴けり部屋にグランドピアノ見え  
餅草といふには長けてをりにけり  
蟻穴を出づる広場のメロンパン  
トランプのババを引きをり新茶つぐ  
薔薇の塀続いてゐたる女学校  
噴水の音上がつたり下がつたり  
活断層見える切り岸夏つばめ

夏来たる

廣瀬雅男

対岸は花の盛りの達磨寺  
原つばをとときには高く紋白蝶  
子雀のこゑの聞こゆる庇かな  
逃げ水の中へと人と犬の影  
風立ちて差し潮匂ふ夏隣り  
合宿の明かり艇庫に夏来たる  
倒れたるまま蚕豆の熟れにけり  
芍薬の花を近くに雨宿り  
あぢさゐや厩のあとはそのままに  
甲高き鳥のこゑ聞く青胡桃

石切場

瀬島洒望

石切場跡はむき出し春の鳶  
増築の老人ホーム初桜  
露店より出前の届く花の宴  
夜桜や女香具師売るジャガバター  
芽柳や道の左右は町工場  
走り根を四方に切株蘂ゆる  
檜芽吹く山を背にして養豚舎  
昼止んで暮れてまた雨枝蛙  
古レール積まれし空き地茅花咲く  
アカシアの咲く都幾川のほとりかな

啄木忌

菊池洋子

綿菓子に顔をうづめて祭りの子  
クレマチス垣にさかせて蕎麦処  
案内は矢印ひとつ藤の寺  
赤信号つづく蛙の目借時  
山藤を見上げ川瀬の舟下り  
春遅々と手になじみたる楽茶碗  
つちぐもり藩邸北ある隠し釘  
くれかねてゐるはくれんに立ち止まる  
ランチひろげる五分咲きの花の下  
駄菓子屋のルビーの指輪啄木忌

夏 椿

藤井美晴

校庭の砂に雀と花の屑  
綿雲の離ればなれに春深し  
学校に日が暮れかかる花蘇芳  
草木瓜の花にひととき昼の雨  
しでこぶし咲いてけむりのやうな雨  
樟若葉祠を海の風吹いて  
つつじ咲く蛸殻町に風荒るる  
信号を待つ自転車に槐散る  
野茨がぐるりを囲む家であり  
帰るときいつも路上に夏椿

初 夏

小山陽子

花冷やペットボトルのお茶の味  
春の灯や手探りで差すコンセント  
ビタミンの酸味の強さ春の風邪  
鴉二羽あちらにも二羽夏近し  
ぺつたりと椀に貼り付く桜蝦  
初夏の午後九時前の千鳥足  
薫風や片足立ちで眠る鳩  
鉄線花散つてしまひし人の庭  
スカートで胡坐をかいて夏座敷  
夏シャツの袖から覗く肘の色

## ◇ 7月・8月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
7月	1日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	1日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	5日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	國保 八江
	5日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	瀬島 孟
	6日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン2	丑久保 勲
	9日(土)	PM3:00	句集出版パーティ	浦和ワシントンホテル	丑久保 勲
	16日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	23日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	24日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
8月	1日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン8	丑久保 勲
	2日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	國保 八江
	2日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン8	瀬島 孟
	5日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	5日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	20日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	21日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	鎌倉・妙本寺	丑久保 勲
	27日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	28日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

[注] ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

浦和コミセンの数字は集会室。

8月21日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR横須賀線・鎌倉駅東口改札口(若宮大路の方)。吟行地は妙本寺。句会場は鎌倉生涯学習センター(鎌倉駅前・若宮大路)。

◎連絡先

瀬島 孟 ☎ 048-862-2757	藤井美晴 ☎ 0422-55-2733
大島英昭 ☎ 048-592-5041	WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男 ☎ 048-443-7522	浦和コミセン ☎ 048-887-6565
丑久保 勲 ☎ 048-853-3856	WEP俳句教室 WEP編集室へ